

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価の調査項目です)

取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分らしい生活 利用者の尊厳を保った生活の支援 家庭的な雰囲気ですぐに生活できる環境を地域に密着し開かれたホームを地域に密着しその人らしく暮らし続けられるよう理念を作り上げ取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所、廊下等目に付く場所に理念を掲示し、ミーティング等でも話し合い意識づけしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議等で地域の方、家族に理解していただくように話し合いをしたり、状態を報告したり、近くの店で買い物したりして取り組んでいる。		運営推進会議等の参加の声掛けをもっと広げて、多くの地域の方にも理解していただくよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	運営推進会議、秋祭り等で参加していただき顔みしりになり、気軽に声掛けあったり、買い物に出かけたりして日常のお付き合いは始まっている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭などに参加したり、地域の店に買い物に行ったりして、地域の方々と交流を深めている。		地元の方に教えていただいた桜の花の開花時の散歩コースを散策したり、積極的に参加して地元の方と交流を深め根付いていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等、来館者に認知症の方の接し方、暮らしぶりを話伝えることで、地域の高齢者等の家族の理解を深め、暮らしに役立つのではないかと考え取り組んでいる。		地域で認知症で困ってある方の方になるなら地元の自治会などに参加して暮らしぶり、体験談などを紹介していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価、外部評価をする意義を理解しミーティングなどで話し合い改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では現況、評価の取り組み状況等の報告をし、参加された方より率直な感想、意見をもらいミーティングなどで話し合いサービス向上に努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム部会を通してコンタクトを取ることもできるし、何か疑問点がある時は相談をし、質の向上に努めている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業、成年後見制度について勉強会等で職員全員が勉強し、必要な人には活用できるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について勉強会等で学び日々の生活の中に虐待にあたる行為がないか話し合い取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約解除時、料金改定時など利用者、家族等が不安、疑問を生じないように個々にじっくり説明をし、意見を伺いながら取り組んでいる。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情を言いやすい雰囲気づくりに心がけ、個別に声掛けたりしている。運営推進会議等でも話し合い反映させている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶり、健康状態等は毎月料金支払に来られた時、話をしたり、来館時に話したりしている。月初めに発行している行事予定表にも書き込むこともある。異変時は其の都度電話等で伝えている。金銭管理については金銭出納帳、領収書を観ていただいている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来館時、状況を見てお会いしてご意見、要望を伺うように心がけ、運営推進会議等の中でも意見や感想を発表してもらい、検討し反映させている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より気づいた点、意見等を言いやすいような関係を築き、毎日の申し送り、ミーティング等で話し合い反映させている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な時間帯に職員を確保する為の調整に努めている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	幸いに離職は少なく利用者も安心されている。運営者は職員の努力、勤務状況を把握し声かけ等を行っている。変わる場合、説明したり声掛けを密にしてダメージに配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集、採用にあたって性別や年齢等を採用対象から排除していない。職員の資格取得等にも応援したり権利は保証されている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>日頃より申し送り、ミーティング等で話し合い声掛け等も注意して行い取り組んでいる。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>実務研修等を受けたりヘルパー、介護福祉士等の資格取得を促したり、いろんな勉強会、講演会へも参加を促し、応援している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム部会等で情報交換、勉強会を行い共に質の向上に取り組んでいる。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>食事会等でストレス発散に努めたり、ミーティング等で意見、悩みを引き出し軽減に取り組んでいる。</p>		
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>努力、勤務状態を把握し、ほめたり、労いの言葉かけを行い、職員の声に耳を傾け取り組んでいる。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人自身の意見、要望を引き出せるように声掛けをして話し合い、受け止める努力をしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族等が困っていること、不安に感じていること、要望を面談等で十分伺い受け止める努力をしている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望と必要性を見極め、他のサービス利用も検討し取り組んでいる。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面談等で安心してもらい、見学等で少しずつ馴染まれるよう家族と相談しながら段階を得ながら支援している。		本人、家族等と話し合い短期滞在等の利用も提案して安心して徐々に馴染まれるように工夫している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩でもあり、喜怒哀楽をともにし、梅干し、らんきょ漬、饅頭づくり等を教えてもらったり、体験談を伺ったりしている。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族のこだわり、苦しみ、喜びを受け止め、共に本人を支援していけるよう取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	いままでの本人と家族の関係についてうかがい、お互いの思いを受け止めより良い関係が築かれるように支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人等の面会も面会時間内に自由にでき、外出も申し出ていただければ出来るため今までの関係が途切れないように支援に努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	よく話をされていたり、一緒にテレビを見たり利用者同士の関係を把握し、孤立し不安になったり、悩んだりされないように見守り、声掛け、相談にのり支援していきたい。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了後も本人、家族等の要望、必要があれば本人の状況、習慣、好み等の情報を伝え相談支援に取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向を個別に伺い、把握し話し合い介護計画に盛り込んでいる。		
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族等より話を伺い、今までの状況、思いを把握し支援に役立てている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の暮らしの流れにそって出来ること、出来ないことを見極め、把握し生活の中で活かすように工夫している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、関係者等と意見、要望を出し合い話し合っ て介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行い、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、関係者と話し合い現状にあった介護計画に変更している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は日々記入し、情報は毎朝に申し送りや其のつど職員に伝えたり、ミーティングで話しあい、実践、介護計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の要望に対応出来るように他の病院等との連絡を密にし支援を行えるように取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議等でも民生委員、消防団の方にも参加してもらい意見交換、話し合いをして協力をお願いしている。警察、消防署等の講習会などに参加し、協力をしていただき支援に結び付けている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホーム部会等で情報交換を行い、必要に応じて他のサービスを利用し支援に役立てている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等に参加していただき地域包括センターからの意見、要望等を出してもらい話し合いを行い支援に役立っている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連絡、現状報告、受診時の送迎等を本人、家族の要望がある場合行い、安心して医療を受けられるように支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	いつでも専門医の診察を受けられるように定期的に受診したり、相談したりして関係を築き支援を行っている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	草場医院の併設な為、普段から看護職員は利用者の健康状態を把握し、介護職員の相談にも適切なアドバイスをしてもらい支援に役立っている。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	他の医療機関等に入院された時は早期に必ず情報の提供を行い相談し話し合いをして、安心して治療を受けることができ、早期退院に向けての支援を行っている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期についての意見、要望を本人、家族等より伺っておりかかりつけ医、職員も情報は共有している。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医、看護師等と十分検討し、話し合いを行い協力し合い一丸となり支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族等と話し合い、要望があれば情報の提供、相談話し合いを行いダメージを最小限にするように支援している		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊敬の意を持ち言葉かけ、対応をしているかミーティング等でも振り返り、話している。記録等の取扱いも個人情報を守るように保管し言葉にも注意している。		尊敬の意を持ち、言葉使いには十分注意してコミュニケーションを図っている。
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	思い、希望を出せるように普段から声掛け等でコミュニケーションをとっており、その方にあった説明を行い、言葉での意思表示が困難な方は表情、反応をみて支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の希望されるペースを大切に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしい身だしなみ、おしゃれを楽しめるように声掛け、見守りを行い、本人が望まれる理容、美容店があれば連絡したり、送迎をしたりして支援をしている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をたてる時から希望を聞いて献立に入れている。準備、後かたずけも手伝ってもらい、いっしょにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	その方が好きなものをスタッフといっしょに買い物に行かれたり、スタッフが頼まれて買って来たり、家族等が持ってきたりして楽しんでいる。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄状態を把握し声掛け、トイレ誘導、パット交換等の介助を行い気持ちよく排泄できるように支援している。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の順番だけは、集団生活でトラブルになった為、部屋回しにしている。ただし、状況に合わせて臨機応変に対応し安心して入浴を楽しんでいる。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を把握し、安眠、休息が出来るように支援している。朝の申し送り等で夜間の状態を報告し、情報を共有するようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意なこと、好きなことなどを把握し、日常生活の中で活かし気分転換して張りのある生活を支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理、出納が難しくなられた方は、本人、家族等と相談し預かり金をして施設で管理している。希望があれば、いっしょに買い物に出かけたり、頼まれて買って来たりして支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	バスバイク等で月に2～3回外出し、希望に合わせて個別に付き添って出かけることもある。ゆらり館の外回りには花や植え木が植えてあり、散歩も時々楽しんでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行ってみたい希望も伺い、行事計画に盛り込んでいる。外出、外泊も申し出てもらえば可能で家族と共に出かけられる利用者もある。		家族と共に出かけたり、ふれあう機会を多く作れるよう計画し、取り組んでいきたい。
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も希望される方は事務所からかけられ、手紙も書かれたら、頼まれて投函したりして、支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人、知人等が気軽に来られるように雰囲気づくりに注意し、リビング、自室で楽しく過ごされるように工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会、ミーティング等で学び、話し合い、理解して取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害もよく理解しているが、帰宅願望が強い利用者があり事故防止の為、やむ迫えず玄関に鍵をしている。また自分の部屋がわからず、他の利用者の部屋に入られる為、体調を壊された方があり、その方の部屋の鍵は閉めている。		見守り、声かけを強化することで、鍵をかけないケアに取り組んでいきたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	事故防止もあり利用者の様子、所在の確認は注意して行っている。夜間は夜勤者が巡回して安全確認を行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所を手の届かない所、目につかない場所等にしたり、鍵をかけたり、カーテンをしたりして危険防止に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会、ミーティング等で学び、話し合い、理解して取り組んでいる。講習会等にも参加して支援に役立てている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師に来てもらい勉強会を開いて応急手当、初期対応について学び訓練を定期的に行っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者の状態を考え避難誘導策を話し合ったり、年2回避難訓練を行い対応している。運営推進会議等で地域の消防団の方にも参加していただき、共に話し合い協力をお願いしている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについて家族等に説明したり、かかりつけ医から説明していただいたり、理解していただくように支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化、異変の早期発見に努め、異変があったときは情報を共有し病院等に速やかに連絡し、指示を仰ぎ支援につなげている。週1回看護師によるバイタルチェックを行っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用してある薬の目的、副作用、用量等を理解し、手渡し、服薬確認の支援を行っている。		服薬の確認には十分注意を払っており、間違いや飲み忘れなどがないう、スタッフ間できちんと確認するよう、常日頃、心掛け取り組んでいきたい。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬に頼りすぎず、便秘予防になる野菜、乳製品等を取り入れたり、朝の体操、リハビリにて適度の運動をされるように促す。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	その方の状態に合わせ、準備、誘導、声掛け、見守り等で口腔ケアの介助を行っている。困難な方はガーゼで口腔内の残材を取り除いている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量表、水分摂取量表で状態の把握に努め、献立をたてる時は栄養バランスにも気をつけ作成している。食事、水分が入らない方がいたら、病院に相談し、よりよいケアが行えるよう支援している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は毎年全員うけられている。他の感染症は勉強会等で話し合い予防に努めている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は消毒したり、日光に当てたり衛生面に注意している。食材は冷蔵庫で保管し、賞味期限の確認も行い食中毒予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花、植木を植えベンチをおき、菜園では、四季折々に野菜も栽培し家庭的な雰囲気ですく出入りし易いように工夫している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造づくりでゆっくりとしたスペースで窓も大きく広い空間になっており開放感があり、家庭的な感じで居心地良く過ごされ、周囲に花、植木等があり季節感を取り入れている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ベランダ、和室、玄関先のイス等で思い思いに過ごされている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、ソファ、思い出の品、仏壇等をもちこみ、安心して過ごされている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	自然の風をよく入れるため窓の開閉を注意して行っている。暖房、冷房を入れる時は体調に配慮して室温のチェックをしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関先から廊下、トイレ、浴室、各部屋にいたるまで、手すりが付いていて安心して生活できるように支援している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その方の状態を把握し、寄り添い、言葉かけをして、混乱を防ぎ自信を持ち暮らせるように支援している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先のベランダ、中庭のイスに腰掛け雑談されたり、観葉植物を育ててある方が鉢をベランダ付近で育てたり、外回りの花、植木を散歩しながら愛でたりして楽しまれている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
. サービスの成果に関する項目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

番号	項 目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない